

## 6. 教員組織

各学部・各学科および大学院の理念・目的・教育目標に基づき、工学部、情報工学部および大学院工学研究科においては理工学教育の内容、社会環境学部においては社会環境学教育の内容を教授して、学生の主体的学習意欲、研究意欲の育成を重視すると共に卒業、修了時のより良い質保証を実現するために、設置基準上必要な専任教員を十分に確保し、適切な人員配置と人的補助体制のほか、公正な教員選考基準による募集・昇格を実施して、教員の教育研究活動が安定的に、かつ円滑に遂行されるような教員組織の実現を到達目標とする。

### (一) 学部の教員組織

本学の教員組織では、人事その他の組織運営に関わる重要な事項については各学部・学科間に不公平が生じないように全学組織の部科長会で審議し、全学教授会で決定して実施している。したがって、自己点検・評価項目には3学部の共通事項が多く、ここでは3学部をまとめて自己点検・評価するが、必要に応じて学部ごとに自己点検・評価する。

### (1) 教員組織

(イ) 学部・学科等の理念・目的並びに教育課程の種類・性格、学生数との関係における当該学部の教員組織の適切性

#### ・工学部

平成14年7月に学長の指導の下に、学生数と各学科の教員定員に関する検討が実施され、工学部と情報工学部の両学科平等に、学生数30名あたりに1教員とすることが決定した。ただし、各学科の学生数とは、収容定員ではなく、各学科の最大在籍者数（収容定員の1.3倍）である。

工学部においては、平成14年度の収容定員1,800名（臨時定員を含む）に対して教員62名であり、1.3倍を考慮した2,340名に対して教員一人当たりの学生数は約38名であった。平成16年4月現在の収容定員1,480名に対して教員61名であり、1.3倍を考慮した1,924名（実在籍者数1,952名）に対して約32名となり、教員組織が改善されている。また、専任教員数61名は、「**大学基礎データⅣ-1**」の全学の教員組織に示すように設置基準上必要専任教員数33名を大幅に上回っていると同時に、自然系における専任教員一人当たりの水準が40名であることから、工学部の教員組織は良好であると判断される。将来予測では、平成19年度以降に収容定員1,320名の定常状態になる予定で、今後も学生数30名あたりに1教員を基準として教員組織の充実に留意していく予定である。以上のことから、工学部における教員組織は適切であると判断される。